

2015年度

アクションプラン

公益社団法人 栃木県サッカー協会

目 次

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン	・ ・	P	1
公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み	・ ・	P	2
2015年度のTFA活動目標	・ ・	P	3
1. 第1種委員会・社会人連盟	・ ・ ・	P	4
2. 第2種委員会・高校連盟	・ ・ ・	P	4
3. 第3種委員会・中学連盟	・ ・ ・	P	5
4. 第4種委員会・少年連盟	・ ・ ・	P	5
5. 女子委員会・女子連盟	・ ・ ・	P	7
6. クラブユース連盟	・ ・ ・	P	8
7. シニア委員会・シニア連盟	・ ・ ・	P	8
8. 技術強化委員会	・ ・ ・	P	8
9. フットサル委員会・フットサル連盟	・ ・ ・	P	9
10. 審判委員会	・ ・ ・	P	10
11. キッズ委員会	・ ・ ・	P	13

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み(TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標(TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人(県民の2%)</u> になる。	<ol style="list-style-type: none"> 第1種登録チームの選手登録数の拡大 U13~18年代の選手登録数の拡大 女子の選手登録数の拡大 フットサル選手登録数の拡大 	2014年度 サッカー選手登録 17,709人 フットサル登録 444人 審判員 5,373人 指導者 2,189人 計 25,715人 県民人口 1,980,556人 県民の 1.30%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として20名以上活躍する。	<ol style="list-style-type: none"> 代表チーム強化 選手の強化・育成 指導者の育成 	2014年度 日本代表 0人 女子日本代表 2人 Jリーガー 13人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	<ol style="list-style-type: none"> 組織内の連携強化 組織基盤の確立 実施事業の充実 	2011年度 全国ランキング 第22位 ※2011以降なし
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	<ol style="list-style-type: none"> 連携・共存体制の確立 サポート体制の確立 協同連携事業の実施 	2014年度 J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が15面に増加</u> する。	<ol style="list-style-type: none"> 対象自治体への整備要望活動の展開 	2014年度 人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 3面 ・矢板市 1面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 2面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 計 11面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	<ol style="list-style-type: none"> 代表チーム強化 選手の強化・育成 指導者の育成 	

2015年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大
　　<プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.5%を目指す>
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍
　　<全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (4) 和歌山国体でベスト4以上を目指す。
- (5) 仮称「とちぎフットボールセンターの整備構想」の具現化 **NEW**
- (6) J2栃木SC、JFL栃木ウーヴァFCとの連携・協力体制の
　　確立
- (7) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (8) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (9) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた組織体制の強化 **NEW**
- (10) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグチーム強化 ・ 各種大会の運営及び委員会への出席率の向上 ・ 各委員会の組織強化 ・ J2チーム指導者による登録チーム指導者及び選手に対する指導講習会の実施 ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・ 全国大会の誘致に向けた取り組み ・ トーナメント大会参加チーム数を増やす取り組み ・ 県3部リーグ編成の見直しに向けた取り組み ・ 登録チーム数を増やすための取り組み
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p><数値目標> 事業及び委員会への出席率をUP (60%へUP) 登録チーム数をUP (2016年度登録時に2チーム増やす)</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大会の活性化 ・ 各委員会(総務・審判・技術・競技)の確立(適数人員) ・ J2・JFLチームとの連携による県内チームの強化 ・ 栃木国体に向け運営レベルアップのために全国大会開催の事前調査及び誘致準備 ・ 新規チーム数を増やすための募集・広報活動

2. 第2種委員会：高校連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p><数値目標> 部員数 3,000人 全国大会入賞</p> <p><スローガン> 高校サッカーを盛り上げよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 技術・審判の質の向上 ・ 男子部・女子部の連携強化 ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化(試合結果速報等) ・ プリンスリーグ関東への本県代表参入 ・ 他種別との連携

目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会の更なる活性化 ・技術・審判の連携 ・ユースリーグ運営面での整備 ・プリンスリーグ参入戦に向けての代表チームへの協力体制づくり ・キッズ講習会の開催（キッズ委員会との連携） ・県総体決勝戦の男女共同開催
--------------------------	--

3. 第3種委員会：中学連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに85%以上のチームの参加 ② B級コーチ1名以上、C級コーチ5名以上 <p style="text-align: center;">M4による指導者講習会への参加率70%以上</p>
	<p><スローガン></p> <p style="text-align: center;">より良い育成環境を目指して</p>
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦文化の醸成 ・指導者養成事業及び指導者研修
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ （1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認B級および公認C級コーチ養成講習会 ・10地区での指導者講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2015年度の活動目標	<p>【地域】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○8地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての業務を円滑に遂行する。</p> <p>【技術】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い技術委員会活動時期・内容変更を行う。 ○関東・全国レベルで通用する選手の育成 ～将来にわたって活躍できる選手の基礎づくり～</p> <p>【審判】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施に伴い審判委員会活動時期・内容変更を行う。 ○スタンダードの確立</p> <p>【広報】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。 ○正確な情報を迅速に提供する</p> <p>【フットサル】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。</p>
-------------	--

	<p>○フットサル研修会の開催方法を、県フットサル委員会と協力して検討 審判・ルール・指導・普及 等</p> <p>【キッズ】○JFA「U-12年代ゲーム環境について（2015全日本少年サッカー選手権大会の開催時期移行提案）」の内容実施。</p> <p>○県・地区技術委員会の中でのキッズからの一貫指導体制の確立</p> <p>○各地区での指導者養成</p> <hr/> <p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4以上</p> <p>【審判】 少年連盟から2級を2人つくる</p> <hr/> <p><スローガン></p> <p>【技術】 プレーの質を追求しよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【広報】 正確・迅速</p>
<p>2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>【地域】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行に伴う計画の立案に参画する。 ②各地区大会の円滑な運営 ③地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ④各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ</p> <p>【技術】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②県トレセン活動の充実 ・トレーニングの質の向上 ③指導者の質の向上 ・全国レベルのゲーム分析 ・本県の課題抽出 ・指導者講習会の設定と積極的参加</p> <p>【審判】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②各地区ごとの審判研修・実技研修の充実 ③3級インストラクターの育成 ④県審判トレセンへの参加 ⑤県派遣審判への協力</p> <p>【広報】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②大会運営者・企業との円滑な情報連携</p> <p>【フットサル】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②少年サッカー連盟フットサル研修会の開催</p> <p>【キッズ】 ①全日本少年サッカー大会開催時期移行の年であるので円滑な移行実施に参画する。 ②県・地区技術委員会との連携</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>【地域】 ①地域リーグ（県大会予選）の導入と運営 ②各種県大会の運営 ③地区の優秀な選手を漏れなく県に推薦する ④地区の理事会の活性化</p>

	<p>【技術】①地区トレセン活動の活性化（伸びた選手は県トレセンへ推薦） ②日本少年サッカー大会県大会での優秀選手選出 ③関東トレセンマッチデー（他県の選手のレベル・戦術分析）</p> <p>【審判】①審判研修の定期的開催 ②他連盟審判員との交流 ③技術と審判のすり合わせのための研修会開催 ④2級審判員育成のためのエリートプログラムの作成</p> <p>【キッズ】①地区開催フェスティバル ②地区開催アカデミー（U-9） ③地区主催キッズリーダー講習会</p>
--	---

5. 女子委員会：女子連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・12～13へのパイプ作り（マッチデー） ・15年代の強化（トレセン強化） ・初心者へのアプローチ（グラスルーツ） ・女子審判の育成 ユース審判の育成 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチデー3回 U124種県トレ×U13女子トレセン ・グラスルーツ2回 大田原地区 足利地区 ・ワンデー2回 U12経験者対象。県央 ・3級審判の育成 審判トレセン <p><スローガン></p> <p>さあ！始めよう7年後の本国体に向けてできること。</p>
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・4種の12と女子の13の交流の場を作り、継続へ繋げる。（4種委員会からの協力を経て実現となった） ・女子登録15のチームのトレセン参加率引き上げと強化（栃木SCを中心に多くのチームからの参加を募り魅力あるトレセンへとしていく） ・初心者へのアプローチとしてワンデーやグラスルーツを行う。（ビラの配布など告知に努め、指導者や指導を経験する場とし選手としても幅を広げる） ・国体への参加協力の徹底と大学生の参加確保への協力。（大学の指導者屋、他県の指導者と交流を持てる環境をつくる） ・審判トレセン 高校交流リーグや県リーグをトレセンの場とする。又、ユース審判の育成に向け各チームの協力を得る。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-13 マッチデー ・グラスルーツ（2回） ・ワンデーサッカークリニック（2回） ・審判トレセン（3回）

6. クラブユース連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上
	<数値目標> 帯同審判の講習会に100%のチーム参加
	<スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・各チームU-14の強化 ・帯同審判の講習会

7. シニア委員会：シニア連盟

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化 ・未登録チームの協会登録強化（各年代） ・全国大会予選会の突破
	<数値目標> 各年代（Over40・Over50・Over60・Over70）の全国大会出場
	<スローガン> 各年代での全国大会出場
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の地域のメンバー選出 ・シニアサッカー選手権大会（O-40、O-50）9月 ・シニアサッカーリーグ（O-40、O-50）5月～2月

8. 技術強化委員会

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 栃木国体+10年を視野に入れた諸事業のスタート ・トレセン活動のさらなる充実と指導者の関わり ・栃木 TSG(テクニカルスタディグループ)の発足
	<数値目標> 関東トレセン大会各種別Aクラス入り
	<スローガン> 全県一致

2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・U-10 キッズトレセン (①8/29、②2/28)・・・国体世代U-10,9選手の掌握(データベース化) キッズ、4種との連携 ※11月にU-9地区大会のサポート(キッズ、4種企画) ・各種別の指導者の掌握(データベース化) 若い指導者の育成とネットワークの形成 ・テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-14 タイ遠征 ・大学選抜韓国遠征(将来の成年代表としての期待も含め)

9. フットサル委員会：フットサル連盟

2015年度の活動目標	<p>数年前まで、フットサルにおける本県は「関東の後進県」の一つに挙げられていた。しかし男女の栃木県リーグが本格的に始まり、フットサル連盟も順調に動き出したことなどから、フットサル人口が多い首都圏のチームを追従する存在にまではなつた。</p> <p>しかしここ数年は、フットサル事業の根幹を成す男女社会人チーム数の登録数の伸び悩みが課題として上がってきている。2014年度は微減となり大会運営にも若干の影響が出た。社会人チームの減少は、本県のフットサル人口の減少に大きく影響してくるため、長中期の重要課題としてフットサルの普及振興をより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、元来、少人数で運営をしてきたフットサル委員会・連盟事業の役員数が足りなくなってきた。負担が集中してしまっている役員も生まれてきている。新たな役員を育成し組織としての体力をつける時期に差し掛かってきている。</p> <p><数値目標> 男女一般チーム登録を前年度の25チームから30チームを目標に増加させる</p> <p><スローガン> 再興 栃木のフットサル</p>
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグのチーム数増加と安定稼働 ②U-15など各年代におけるフットサル大会の安定運営 ③パーモントカップ全日本少年大会の主管移行に向けた準備 ④普及事業の促進 ⑤県内におけるフットサルのPR ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会(U23、U18、U15) ⑧各種普及イベント

10. 審判委員会

<p>2015年度の活動目標</p>	<p>① 各種別・各連盟との連携により審判員・並びに指導者の育成強化を図り、指導システムを確立する。(短期)</p> <p>② 審判トレセン、ユース審判員育成を充実し、審判員の技術、知識、体力、パーソナリティの向上を目標に各連盟から強化審判員を輩出させる。(短、中期)</p> <p>③ 日本、関東に通じる審判員を育成強化し、県独自の審判指導体制、育成システムを構築させる。(長期)</p> <p>④ WEB登録を周知徹底させ、ホームページの活用から取得講習会並びに更新講習会を充実させる。(短期)</p> <p><数値目標> 審判員登録数を1級 7名、2級 60名、3級 500名 4級 5000名、フットサル 700名、女子 10名を 目標に育成する。(中期、長期)</p> <p><スローガン> THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND 'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p>(1種)</p> <p>①2級審判員2名、2級インストラクター1名、3級インストラクター1名の輩出。候補者の選出と受験時期を見据えた育成をする。</p> <p>②中堅審判員研修会の充実 35歳以上&3級取得後5年以上の審判員を対象に実技研修会を実施して技術向上を図る。</p> <p>(2種) ユース審判員、高校女子審判員対象の研修会を実施する。</p> <p>(3種)</p> <p>①審判員の養成。具体的には、2級以上の審判員を栃木県の各地域に確保し、地域の審判強化の中心として活躍できるようにする。</p> <p>②3種審判講習会の充実。具体的には、現状として、年に2回行われている講習会の充実を図る。</p> <p>(4種)</p> <p>① 全地区において4級帯同審判員対象の審判研修会・実技研修会を実施。</p> <p>② 年2～3回の3級審判員研修会を実施する。</p> <p>③ 審判と技術合同ですり合わせの研修会を実施する。</p> <p>(女子)</p> <p>① 現在の3・4級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。(練習試合、連盟内トレセンを利用)</p> <p>②4級審判より3級審判を1名養成する。 (4級資格取得講習会より3級審判候補としてピックアップする)</p> <p>③各チームから複数の女子審判員を養成する。</p>

	<p>(シニア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。 ② シニアの各カテゴリー(0-40 から 0-70 まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。 <p>(クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2級審判員を目指す若手3級審判員を発掘する。 ② 3級インストラクター1名を増員する。 ③ カテゴリーを越えた審判員活動機会に積極的に参加させ他のカテゴリーの審判員との交流を図る。 <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①フットサル審判員の養成と確保(特に若手、女性) ②フットサル審判員の資質の向上を図る。 ③新たに1級1名、2級2名、3級5名の誕生を目指す。 ④3級昇格審査会、4級取得講習会を充実する。(特に3級昇格審査会) ⑤2級3級4級更新講習会を充実する。 ⑥2級3級対象の審判研修会を実施する。(1級審判員を講師に迎えての実施) ⑦リーグ、各競技会の審判員及びインストラクター派遣を派遣する。 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①12回の審判トレセンを実施する。 ②3級審判員フォローアップ研修会を実施する。 ③2級・3級審判員を強化、増員する。(関東強化4名を目標) ④インストラクターを増員(SI2:5名、SI3:20名)する。 ⑤審判トレセンを充実させ、上級審判員を誕生させる。 (審判育成システムを工夫し審判カルテの導入、各級に応じた指導体制の確立、ユース審判員、女子審判員の普及育成を図り発掘する。) ⑥トップレフリーセミナーを開講し、上位の審判員を強化する。 <p>(競技部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①kickoffサイトの有効利用 関東主催大会に派遣する審判員を各カテゴリー毎に選出・登録し、kickoffに登録して審判割当を実施する。 ②企画委員への審判割当の公開 TFAのGmailに審判割当を送信して企画委員に公開することで、インストラクターの派遣や情報公開に繋げる。
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社会人リーグや天皇杯予選などを使用して実施する。 ・1種主催の研修会の開催 <p>(2種)</p> <p>ユース審判員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4級審判員取得講習会をインターハイ県予選決勝戦時に実施する。 ・各県予選会にユース審判員を割当てる。 ・全日本少年サッカー大会へ派遣する。

高校女子審判員

- ・ JFAによる都道府県審判トレーニングセンターを利用する。
- ・ JFAによる女子審判員育成・普及に関わる講習会・研修会を利用する。（上記2つを4級審判員資格取得講習会として扱う。）

（3種）

<研修会実施時期>

- ・ 10月・・・中学校県新人戦の最終日、準決勝と決勝の時、同時に実施。
- ・ 2月・・・下野杯中学生サッカー大会の準々決勝の日、4試合で実施

講習内容は、ルール解説、試合観戦（割り当て者もいる）、質疑応答、技術トレーニング。これらの、内容を、更に充実させると共に、情報交換の場としてネットワークを密にする。

<講習会における目標>

- ・ 審判として、「為すべきこと」を確認する機会とする。
- ・ 県内各地、現場で審判に関する内容の疑問や質問等をすくいあげる場とする。
- ・ 審判委員の資質を大きく秘めている者を発掘する、機会とする。
- ・ 「仲間意識」を確認して、サッカーの魅力を再確認できる、機会とする。

（4種）

- ・ 各地区から推薦された派遣審判員をカテゴリー分けする。
- ・ カテゴリーに準じた審判を割当てる。
- ・ 2級審判育成プログラム、3級インストラクター育成プログラムの策定。4種所属の審判員参加の審判トレセンを実施する。

（女子）

- ・ 現在の3・4級審判委員のフォローアップ研修会を実施する。（練習試合、連盟内トレセンを利用）
- ・ 4級審判より3級審判を1名養成する。（4級資格取得講習会より4級審判をピックアップする）

（シニア）

- ・ 審判の取得・更新を通知で啓発する。

（クラブ）

- ・ クラブ選手権及び高円宮杯、U13、U15リーグ戦において発掘する。
- ・ インストラクター取得講習会の案内を行う。
- ・ 社会人リーグやU18リーグへの参加を呼びかける。

（フットサル）

- ・ フットサルの1級審判員を輩出する。
- ・ 栃木県フットサルリーグ（1部・2部）への審判員への派遣とインストラクターを派遣する。
- ・ 関東フットサルリーグへの審判派遣とインストラクター協力
- ・ バーモントカップ県予選、U18及びU15大会県予選への審判員を派遣する。
- ・ 全日本選手権（プーマカップ）栃木県予選へ審判員を派遣する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県女性フットサルリーグへ審判員及びインストラクターを派遣する。 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1種から4種審判員の合同研修会並びに各級でのフォローアップ研修を設け充実する。 ・年度当初に強化審判員を指定する。 ・年間80試合にアセッサーを割り当てる。 ・年2回のインストラクター研修会を実施し資質向上をする。 ・年2回以上の女子トレセンを実施する。 ・国際交流プログラムを検討し、技術委員会と連携を図りながら帯同で派遣する機会を設ける。
--	--

11. キッズ委員会

2015年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の拡大 ・地区フェスティバルの充実（年2回以上） ・JFA フェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・4種指導者に向けての研修会開催 <p><数値目標> 子どもたち延べ20,000人との交流</p> <p><スローガン> キッズから栃木のサッカーを変えていこう</p>
2015年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導 150回（実質80園・小学校30校） ・各地区フェスティバルや交流戦、大会などの年2回以上開催 ・JFA フェスティバルの内容の検討 ・JFA グラスルーツフェスティバルの地区開催 ・キッズリーダー講習会の地区開催 ・高校生との交流事業の拡大
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木 SC スマイルキャラバン ・栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・地区主催キッズサッカーフェスティバル ・JFA キッズサッカーフェスティバル ・JFA グラスルーツフェスティバル ・キッズリーダー養成講習会